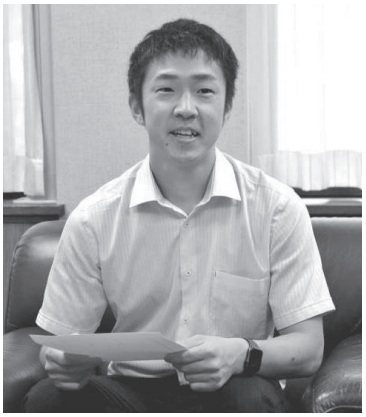
町地域おこし協力隊 元小学校教諭　小箱さんに委嘱状 初のスポーツ振興担当



地域おこし支援や地域協力活動を通しまちの活性化に一役買う地域おこし協力隊に、小箱駿太さん（28）を新たに委嘱しました。

小箱さんは札幌出身で、札幌市の小学校で６年間、教諭を務めていました。小中学校時代はサッカー、高校からはハンドボールに打ち込んでいたスポーツマン。全国大会の経験もあります。

積極的に札幌の地域総合型スポーツクラブでの活動に精を出し、少年団の指導も。その中で知った、人のつながりの大切さから「教員との両立は難しい。もっといろいろな人とつながりを持ちたい」という気持ちと、教員時代は「地域学習の中で地域の課題をひとつずつ解決する大切さ」を教えていたこともあり、地域活性化に携わる協力隊への応募を決断しました。町教育委員会に所属。だれもが気軽にスポーツに楽しめる機会の創出、部活動の地域移行の支援、町内外の幅広い関係団体との連携強化、新たな指導者やリーダーとなる人材育成への貢献が期待されています。小箱さんは「札幌の地域総合型スポーツクラブとの連携など方策を模索しながら、白老のスポーツ振興の力になれれば」と話していました。現在任期中の協力隊は小箱さんを除き７人が活動しています。

地域おこし協力隊通信

野田和規さん（26）
森林ガイド担当（４年目）

白老町から日本一を目標に！

九州から白老町に移住して３年。僕のような自然好きにとっては天国のような場所です。

白老で暮らしつつ自然ガイドを行う中で、その自然の豊かさを首都圏の人たちに広く伝えたいと思うようになりました。ポロトの森で自然ガイドを行う傍ら、昨年11月から、「ミモリラジオ」というネットを利用したラジオ番組を始めました。

四季が豊かな白老町。現地ガイドだけでは、ダイナミックに移り変わる季節の美しさを伝えることが難しいと感じていました。「ミモリラジオ」を聞くと、いつでもどこでも、自然のおもしろさを楽しむことができます。

これまで取り上げてきたのは、「鮭」「きのこ」「笹」「コケ」など。全部で70回以上、各20分ほどの番組を放送してきました。

今年11月に、日本一のラジオ番組を決める大会があり、ここで１位を獲るため、日々白老の森を感じながら番組制作に取り組んでいます。

左記の二次元コードから、ラジオ番組をきくことができるので、よろしければお聞きください。ポロトの森によくいるので、見かけた方はお声がけください！

知っておこう アイヌ文化

ピパ

イランカラプテ。今年もチキサニが森野地区で育成しているキビやヒエといった穀物の収穫時期が近づいてきました。さまざまな文献を読んでいると、アイヌ民族にとって農耕は、生活に密着していたものとは言えず、作物の収穫量も少なかったと紹介されています。それでもキビやヒエなどの穀物は古くから作られ、ピと呼ばれる高床式の倉庫に保管し、貴重なものとして儀式の際の団子や酒の材料に利用してきました。こうした穀物の実った穂を順次、収穫する際に昔から使われている伝統的な道具が、ピパと呼ばれるカワシンジュガイの殻を使った穂摘み具です。ピパは磨いて刃物として使うことができ、貝の一番厚いところへ木の枝先に火をつけたものを何度も押し付けて穴を二つ開け、指を通す紐を通します。そして、ピパの紐を指にかけて、貝殻の端の部分で穀物の穂を摘み取っていくことができます。アイヌ民族は、穂摘み具だけでなくカワシンジュガイのこともピパと呼び、食料にもしていました。現在、カワシンジュガイはその個体数が減少し、絶滅危惧種に登録されています。

ピパを使ってヒエの穂を摘み取る様子

さて、チキサニでは９月26日㈫に山のイオル「穀物採取体験」を開催いたします。詳細は本紙P19「くらし百科 催し イオル体験交流事業」をご覧ください。皆さまのご参加をお待ちしております。

政策推進課　アイヌ政策推進室　学芸員　森洋輔

問い合わせ先：イオル事務所　チキサニ　☎８２－６３０１